

「研究の目的」：学習者によるダロウカの習得状況を調査した上で、日本語教科書におけるダロウカの扱いを検討すること

「本発表でアピールしたいこと」：日本語母語話者との比較を通して、中国語母語話者によるダロウカの習得における問題点を指摘すること

## 1. はじめに

実際の使用において、ダロウカ<sup>1</sup>はダロウ全体の4割以上<sup>2</sup>を占めているが、ダロウカに関する研究はそれほど多くはない。特に、学習者の使用実態、習得における問題点についての調査は管見の限りまだないようである。そこで、本稿はダロウカに注目し、中国語母語話者の習得状況を調査した上で、日本語教科書におけるダロウカの扱いを検討することを目的とする。

## 2. 調査方法及び調査結果

本発表では「YNU 書き言葉コーパス」(金澤編 2014)を利用し、中国語母語話者(以下 CN)30名および日本語母語話者(以下 JP)30名による計720編の作文から、ダロウカの用例を手作業で抽出して、〈疑念〉用法と〈婉曲〉用法に2分する。

### 2.1 〈疑念〉

#### ・ 疑い及び思考過程の提示(JP:21件, CN:0件)

(1) 居民の安心した暮しのために、国が同病院の閉鎖は果していい決断なのか？

(cf. 果していい決断なのだろうか) (タスク 6, C049)

#### ・ 自問自答(JP:8件, CN:3件)

(2) では、何故餃子が伝統的な料理だというのでしょうか、それは餃子が中国の一番大きな年中行事「春節」の食卓では欠かせない料理だからです。 (タスク 9, C038)

#### ・ 不確定の提示(JP:0件, CN:2件)

(3) [レポートにおけるグラフの説明]

2004年に販売台数がピークになっている。(中略)これからも増えていくでしょうか。

(cf. これからも増えていくでしょう。) (タスク 3, C005)

<sup>1</sup> 「だろうか」「でしょう」などの形を含む。疑問詞を伴う際、「か」が省略できる。

<sup>2</sup> BCCWJにおける「国会会議録」以外のデータを検索対象として、中納言 2.2.2.2を使用し、短単位検索を行った。「キー 語彙素=だ、活用形=意志推量形」及び「キー 語彙素=です、活用形=意志推量形」で検索したところ、「だろうか」の用例が76,325件、「でしょう」の用例が108,755件得られた。これらから2000件ずつランダムピックアップしたところ、ダロウカの用例がそれぞれ670件と1,079件、併せて1749えられた。これは4000件の43.7%を占めている。

## 2.2<婉曲>

### ・「依頼・許可求め」(JP:34件, CN:21件)

#### (4) [面識のない先生へのメール]

そこで、友達から先生の研究室にあると聞きまして、失礼ですが、お借りできませんか。

(cf. お借りできないでしょうか) (タスク 1, C040)

### ・「主張・助言」(JP:18件, CN:5件)

(5) もしそれらにご興味があれば、市内中部の人民広場、新民大街、文化広場、新発路あたりをご覧  
になられたらいかがでしょうか。 (タスク 7, C047)

### ・「意見尋ね・答え求め」(JP:17件, CN:9件)

(6) 先生のご意見はどうでしょう。ぜひ聞かせたいと思います。 (タスク 4, C003)

## 2.3 習得における問題点

- ①全体的に、CNによるダロウカの使用数はJPより少ない。
- ②<疑念>用法の場合、疑いや思考過程を提示するダロウカの使用は見られず、習得されていない。
- ③<婉曲>用法の場合、「依頼・許可求め」の場面においてダロウカの不使用という問題点がある。

## 3. 日本語教科書におけるダロウカの扱い及び問題点

考察した教科書：『みんなの日本語』『総合日本語』『新編日本語』

### ・問題点(1)：ダロウカの<疑念>用法に関する説明が不十分である

<疑念>を文法項目として扱っているのは『総合』のみである。ほかの2種類の教科書は<疑念>についての説明が欠如している。2節の調査結果から、CNによる<疑念>のダロウカの使用数はJPの1/5であることがわかった。教科書において、<疑念>のダロウカ、特に疑い及び思考過程を提示する場面で使用されるダロウカについて、もっと詳しい説明を加えるべきだろう。

### ・問題点(2)：<婉曲>用法の使用場面の提示が不十分である

ダロウカの<婉曲>用法について、3種類の教科書は全て言及しているが、どんな場面に<婉曲>用法を使うべきかについての説明は不十分であると思われる。『みんな』は<婉曲>ダロウカを「依頼」「許可求め」「主張・助言」を表す表現と組み合わせて指導しているが、例文及び練習において場面や状況を設定していないため、産出に繋がらない。『総合』においては、各使用場面に使える表現を網羅的に挙げているが、具体的な説明も例文もないため、学習者にとって理解しにくく、実用性は高くないだろう。

## 参考資料

金澤裕之編(2014) 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』 ひつじ書房